

実施内容 (安全パトロール、交通ルールの厳守、周囲の確認)

【交通ルールの遵守】 令和6年春の全国交通安全運動推進要綱

事業所等職域における実施事項

- (1) 事業所等の業務形態に対応した交通安全教室等の開催
- (2) 飲酒運転・無免許運転・妨害運転等による交通事故の実態及び悪質性・危険性の周知
- (3) 横断歩道等における歩行者等優先義務の徹底と歩行者等に対する思いやりのある模範的な運転の実践
- (4) 交通法令を遵守し、体調面も考慮した安全運転の励行
- (5) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルト着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底
- (6) 自転車・特定小型原動機付自転車利用者に対するヘルメット着用と交通ルールの遵守の徹底
- (7) 社内における広報啓発活動や、職員による地域の交通安全啓発活動への参加の促進
- (8) 安全運転管理者、運行管理者等による交通安全指導の徹底



「全国重点事項と主な推進項目」

《全国重点事項と主な推進項目》

① ① 誰もが安全に通行できる道路交通環境の確保
と安全な横断方法の実践

・ 通学路を始めとした安全な道路交通環境の確保
・ 歩行者の交通ルール順守の徹底

② ② 歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」
運転の励行

・ 運転者の歩行者優先意識の徹底

・ 飲酒運転の根絶

・ 妨害運転の防止

・ 高齢運転者の交通事故防止

・ 後部座席を含めた全ての座席のシートベルト
着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底

③ ③ 自転車・電動キックボード等利用時のヘルメッ
ト着用と交通ルールの遵守

・ 自転車利用者のヘルメット着用と安全確保

・ 自転車の交通ルール遵守の徹底

・ 特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット
着用と交通ルール遵守の徹底。

※事業所等職域の実施事項は上記の通りです。
構内事故防止を含めて取り組みましょう。

「KY 運転 10 則」

第1則 自分自身に内在する危険（悪い態度や悪いクセなど）を予測する。

第2則 赤信号でも停止しない車があることを予測する。

第3則 交差点で変則的に曲がる車があることを予測する。

第4則 前車が予告なしで突然曲がったり停車することを予測する。

第5則 停止場所で一時停止しない車があることを予測する。

第6則 路面の状態によって停止距離が変わることを予測する。

第7則 狭い道路では子供や自転車等が飛び出してくることを予測する。

第8則 車間距離を極端に詰めたときの危険を予測する。

第9則 相手の車が譲り合ってくれないことを予測する。

第10則 自分の危険予測や安全態度が道路環境に合致しているか予測する。

見直そう「ながら運転」運転中の判断ミス・判断遅れを防止しよう

運転中にハンズフリーでの会話も禁止する主な理由は、イヤホンで耳が塞がって周りの音を聞く妨げになること、また電話での会話によって「運転への注意力が落ちる」ためです。

▼「運転への注意力が落ちる」とは

理由は人間は二つのことを同時に判断できないため、判断ミスや遅れが生じます。

それは、電話で会話をしながらの運転中に右折する交差点にさしかかった時に、事務所から「〇時に△△社に寄れますか？」と聞かれて「可能か否か」考えながら、右に横断歩道を渡りそうな人を見て「自車が先に横断歩道を横切れるか、待つべきか」を「同時に判断できない」ということです。一方を後に判断することになり、判断が遅れたり間違ったりします。

同乗者には運転状況がわかるので返事を待たせることができますが、電話は通話相手に運転状況がわからず、また運転者は「早く返事をしなければ」と焦りも生じます。

会話は車を安全な場所に停めて行うことや運転者への連絡は「メールや着信だけ入れて折り返しの電話を待つ」など運用を整理しましょう。

周囲の確認 (現場では下記重点4項目を確認しましょう)

現場作業での重点4項目(現場作業のあるべき姿)

- ① 工事開始前に全員で作業現場を点検すること。 2012.6.23
千葉重大災害の再発防止のための視点追記
 - 不安全な状態があれば養生してから作業を始める。
(可動物、リンク、重量物は必ず固定してから作業を始める。)
- ② 作業中は常に安全意識を持ち続けること。
 - 工事の安全最優先は、自分で確保しなければならない。
 - 一人ひとりがその時の状況を把握しながら、考えて、安全に仕事を進める。
 - 共同作業においては同僚をよく注意して観察し、相互啓発をこまめに行う。
- ③ 作業指揮者は「**一步離れて**」、仲間の安全を見る。
 - 作業指揮者は、安全指導と作業指揮が本来の職務である。
 - 共同作業者を良く観て、注意・指導する。
 - 現場の状況を観ると同時に人(共同作業者)を良く観る。
 - 落ち着いて観れるだけのゆとりと余裕をもって作業する。
- ④ 用事の無いときは現物から離れる。
 - 危険な場所に近づかない。
 - 指示がない場合、勝手に手出しをしない。

**重点4項目を守って、
作業行動の変革を行う。**

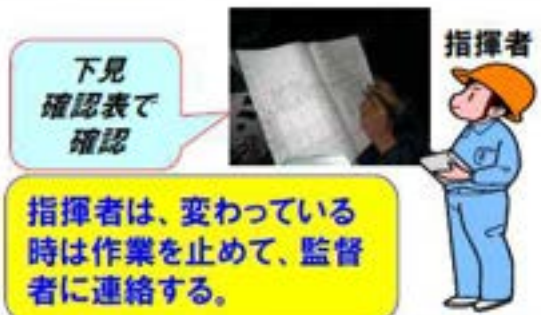
作業のリスクアセスメントを進めよう！！

1. 『工事開始前に全員で作業現場を点検』する

指揮者は、全員を集め作業手順の説明をする



指揮者は、下見時と現場の状況が変わっていないか確認する



指揮者は、全員で作業場所に危ないところがないか点検する



全員で安全養生してから作業を開始する



2. 『作業中は常に安全意識を持ち続ける』

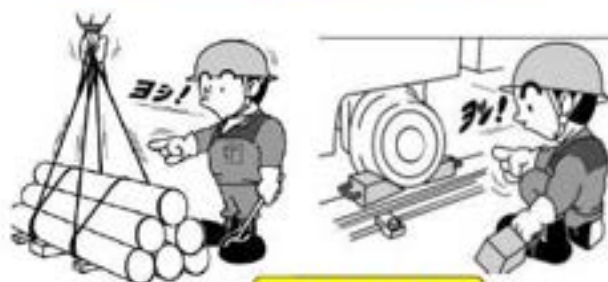
一仕事、一片付けをする



乱雑な現場は危険がいっぱい！

共同作業者は同僚に絶えず声掛けをし、互いの呼吸を合わせる

指差呼称で安全を確認をする



指差呼称！

危険と思ったら遠慮なく注意する
(たとえ、先輩であっても)



声掛けを！



相互注意を！

3. 作業指揮者は『一步離れて』、仲間の安全を見る

工事着工前に、全員で大事な場面
(特に危険な作業)はどこかを定める



大事な場面の
決定

監督者は、大事な場面では「指揮者が
一步離られるよう」要員配置する



大事な場面では
+1名

指揮者は、大事な場面では仕事を
止めて、仲間を良く観る



指揮者の職務は安全指導！

大事な場面では、あせらず、落ち
着いて指示する





4. 『用事のないときは現場から離れる』

作業者は、指揮者の指示なしで勝手に作業をしない



作業者は、指揮者の指示なく勝手に危険な場所へ近づかない



作業者は、指示された自分の仕事が終わったら、指揮者へ報告し、次の指示をまつ

指揮者は、作業者が手待ちになったら、安全な場所で待機させる

